

生野中学校区 学校適正配置検討会議
標準服等専門部会（第1回） 会議録

1 日 時 令和2年9月16日（水） 午後7時から

2 場 所 生野区役所5階 502会議室

3 出席者

（校名専門部会メンバー）

菰池 愛委員、下村 泰子委員、永松 なつめ委員（公募）、森 秀直委員（部会長）、
吉田 貴司委員

（学校）

末田 美幸（林寺小学校長）、楠井 誠二（生野中学校長）

（教育委員会事務局）

樋口 義雄（総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長）、竹口 一吉（学事
課担当係長）、竹中 一郎（生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総
務部教育政策課担当係長）、白石 秀一（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員
会事務局総務部教育政策課係員）、西川 明宏（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委
員会事務局総務部教育政策課係員）

4 議題

- ・標準服等専門部会における進め方について意見交換する。

5 議事要旨

（1）行政からの説明

【部会長について】

（説明者：竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）

- ・標準服等専門部会（以下、部会）の円滑な進行を目的とし、進行役および検討会議への報
告者として部会長を置きたいと考えている。部会長への立候補があるか確認したい。
⇒森委員が立候補し、異議なかったため、森委員を部会長とする。

【標準服等専門部会の進め方について】

（説明者：竹口学事課担当係長）

- ・議事資料に沿って説明を行った。
- ・今回の標準服等専門部会において、標準服等の検討の進め方について意見交換を行い、次
回の検討会議において進め方を報告する。
- ・行政が提案する進め方は、これまでの事例である桃谷中学校、大池小学校での仕様を参
考にして、学校で校長を中心に、保護者、PTAの方々と標準服に求める意見をまとめ、
年明けを目途に学校から報告をいただく。
- ・いただいたご意見は、標準服等の仕様を検討する際の参考とする。4小学校1中学校の意
見をまとめることとなるので、意見集約の期間は3か月程度が必要と考えている。
- ・意見をまとめた以降は、標準服等に対して何を求めていくのか、仕様について意見交換す
ることが、この専門部会の役割になる。
- ・標準服等の仕様を決めた後のスケジュールは、これまでの先事例にならい、標準服等の

提案事業者を募集→提案事業者から提案する標準服等のプレゼンテーション開催→学校に標準服等のサンプルを展示→アンケート実施→アンケート結果を参考にして標準服等を決定→大阪市において標準服等の販売業者の入札を進める案を考えている。

- ・販売業者の入札や、その後子どもたちへの採寸の時期を考慮し、標準服等の決定は遅くとも令和3年8月末までに行う必要があり、今回提案しているスケジュールでは、令和3年6月中に決定する案にしている。

(2) 意見等の概要

【標準服等専門部会の進め方について】

(委員)

- ・仕様となると文章になってしまうが、児童に対して「こんな標準服であればいい」と思うデザインを募集してはどうか。10～12月で意見をまとめるとあるので、その期間に同時に児童にも募集ということがあってもよいかと思う。

(竹口学事課担当係長)

- ・新型コロナウイルス感染症への対応のなか、学校としてもその時間を確保することが難しい部分もある。多くの案が出てきた際に、専門部会での絞り込み作業が大変になり、委員の方の負担になると思われる。

(委員)

- ・デザインはある程度パターンが決まっている。
- ・中学校の標準服と連携するのかどうかの検討も必要ではないか。例えば、小学4年生の学年で買い替えるとなった時に、小学生向けの標準服等を買うのか、中学生向けの標準服等を買うのか。
- ・小学校（前期課程）と中学校（後期課程）の標準服が違えば、学年が混ざった時に違いが出てしまう。見た目をそれほど変えないとすれば、例えば小学5年生の学年でも中学校（後期課程）の標準服を買えるようにしたり、小学校高学年に相当する学年になったら長ズボンの着用も可能としたりするということもできる。
- ・大池小学校の事例は小学校基準の内容となっている。大阪市初の義務教育学校となるので、旧来の形としてよいものか。

(竹口学事課担当係長)

- ・小中一貫校では、高学年は中学校の服を着用することについて、学校の運用で可能としているところがある。
- ・大池小学校の検討の際には、保護者は洗濯のしやすさや、長く着用できるかといった点など、素材等や機能面に対する意見が多かった。子どもたちはデザインを優先になると思われるので、どちらの意見にしてあげるのがよいか、意見交換いただきたい。

(委員)

- ・近頃はどんな服でも洗濯ができるようになってきているし、スカートのプリーツもとれにくくなってきている。熱への耐久性があるウール混の生地が、ポリエステルのみ生地よりも高価になるというわけでもない。

(竹口学事課担当係長)

- ・例えば、部会で、一定の標準服の形を考えてから、保護者の方々からの意見を参考にしな

がら進める方法もあるので、皆さまがご負担にならないような進め方について意見交換いただきたい。

(委員)

- ・子どもたちの意見を聴くということであれば、デザインは難しいかもしれないが、リボンやネクタイの色等について聴くということはできるのではないかと。

(委員)

- ・ネクタイを採用するかどうか検討項目となるか。

(委員)

- ・小学生にネクタイは難しいか。

(委員)

- ・生活指導上の課題もあるのではないかと。また、ネクタイを採用すれば、ポロシャツを採用することはできなくなる。

(委員)

- ・カッターシャツとなればアイロンの負担が大きい。

(委員)

- ・同じく令和4年4月に開校予定の田島中学校区の学校と同時にプレゼンテーションを行ってもよいのではないかと。スケールメリットがきく可能性もある。

(竹口学事課担当係長)

- ・標準服等に対する意見があるかと思うが、本日は、今後の進め方から決めていきたい。

(委員)

- ・大池小学校の検討の際は、保護者の意見はアンケートで募ったのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・御幸森小学校、中川小学校の両校のPTA 同士が集まってご意見をまとめていただいた。

(委員)

- ・両PTAの代表が集まった形か。

(竹口学事課担当係長)

- ・何人かが来られていたと思うが、PTA だけでまとめていただいた。

(委員)

- ・大阪市ではPTAが標準服等を決めている学校が多いのではないかと。

(委員)

- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、集まって意見をまとめるということは、今は現実的ではないかと。

(委員)

- ・自校であれば、保護者に仕様書レベルの項目を大雑把にアンケートで選んでもらい、PTA 実行委員会にて結果を集約するという事も考えられる。

(竹口学事課担当係長)

- ・本日の意見交換から、今までの意見、仕様書の項目に対して、保護者の方々がどのようなご意見なのかわかるようなアンケートの実施はいかがか。自由意見もお書きいただけるようなアンケートを考えるのはどうか。

⇒委員より異議なし。

- ・これまでの事例における意見、仕様の内容に対する保護者の考えがわかるもの、かつ自由記載ができるアンケートを、保護者を対象に意実施する。アンケート結果は事務局にて、資料にまとめ、アンケート結果を参考にして、部会で仕様書の内容を詰めていくこととする。

(委員)

- ・アンケートの項目に「店に買いにいきやすい」、「配達に対応している」、「閉店時間が早くない」等も入れてほしい。

(委員)

- ・保護者としては重要な項目だ。

(竹口学事課担当係長)

- ・学校の運用によるが、学校指定としないポロシャツのことを参考意見として入れる。

(委員)

- ・学校に定期的に販売に来てもらえると助かる。

(竹口学事課担当係長)

- ・学校として、そういった定期的な販売の場所を確保できるか。

(楠井生野中学校長)

- ・場所の確保は可能だが、事業者が販売に来てくれるかはわからない。

(竹口学事課担当係長)

- ・今回、いただいたご意見からアンケートを作成していく。

(委員)

- ・メーカーの決定と販売店の決定は別々に行うのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・これまでの事例ではそのようになっていたが、担当部署と相談しないといけない。
- ・次回の生野中学校区 学校適正配置検討会議（以下、検討会議）において、アンケートを実施することについて報告を行うが、その前に、どのような形で行うかについて、部会委員の皆さまに打診を行う。
- ・次回の検討会議が終了後、出来るだけ早く準備を行う予定。例えば、皆さまにアンケートをお渡しして、2週間ぐらいで意見を集約することは可能か。

(楠井生野中学校長)

- ・アンケートの配布は学校が行うということでよいか。

(竹口学事課担当係長)

- ・学校から配付する方法と、委員から配付する方法のどちらがよいか。

(委員)

- ・実際に配布する時には学校に依頼する形となってくる。

(楠井生野中学校長)

- ・全保護者にアンケートを配布し、回収することになるか。

(委員)

- ・デザインに関することと、販売に関することは分けた方がよい。

(竹口学事課担当係長)

- ・アンケート内容については、またご相談させていただきたい。

(末田林寺小学校長)

- ・教員の意見も何らかの形で活かしてほしい。

(竹口学事課担当係長)

- ・学校においても、標準服等の意見も集約していただき、仕様を考える際に取捨選択していくのがよい。

(末田林寺小学校長)

- ・新たな学校における決まり作りも進めているので、ご理解いただいて進めていきたい。

(竹口学事課担当係長)

- ・特に安全面、防犯面を心配される学校の意見は大事になる。

(楠井生野中学校長)

- ・アンケートを全員に配布すれば、かなりの数が帰ってくると思う。集約はどこで行うのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・アンケート集約は事務局で行う。

(委員)

- ・アンケート配付は検討会議で報告してからでないといけないのか。少しでも早くできれば、実行委員会でゆとりをもって動きやすい。

(竹口学事課担当係長)

- ・標準服等の検討については部会に委ねられているので、検討会議にて進め方を報告すればよいと思う。

(委員)

- ・小学校と中学校に同じアンケートを配布するのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・桃谷中学校の標準服等を検討した際のアンケートも参考にしながらアンケート案を作成のうえお示ししたい。

(楠井生野中学校長)

- ・アンケート集約後はPTA 実行委員会等で学校単位の意見をとりまとめるのか。それとも部会で意見をとりまとめるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・どちらがよいかご意見をいただきたい。部会で意見をとりまとめるとなれば、事務局で集計を行うため、お時間をいただきたい。

(委員)

- ・簡単なアンケートにしないといけない。色等も聞くのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・仕様の内容を中心とすることを予定している。

- ・令和3年12月に採寸を行うとすれば、同年6月までに標準服等を決定したい。これまでの事例に照らせば、余裕があるスケジュールとなっている。

(委員)

- ・令和2年の12月に意見をまとめ、令和3年6月に決めるとなると半年しか時間がないが、間に合うのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・過去の事例では、もっと短期間で検討を行っている。

(委員)

- ・意見の集約にはどれほど時間を要するか。

(竹口学事課担当係長)

- ・1か月から2か月程度をいただきたい。

(委員)

- ・PTAとしての動きは無しでよいか。

(竹口学事課担当係長)

- ・はい。

(委員)

- ・2か月先に部会を開くということとなるか。

(委員)

- ・アンケートの配付も含めて2か月か。

(竹口学事課担当係長)

- ・アンケートの配付から集約するまで2か月を想定している。

- ・最短で11月から2月にかけて、3、4回の部会にて仕様書についての意見交換ができる。スケジュールについては再度作成するとともに、次回の検討会議までにアンケート案をご確認いただけるようにする。

(委員)

- ・意見を集約している間に検討を進められるものはあるか。

(竹口学事課担当係長)

- ・上着をブレザーにするか、詰襟とするか、長ズボンとするか半ズボンとするか等、デザインのおおよその形をあらかじめ作っておいたうえで、アンケート結果とすり合わせるということもできる。

(委員)

- ・細かく意見を聴くと収拾がつかない。おおまかな方向性は決めておいてはどうか。

(竹口学事課担当係長)

- ・アンケートの実施と並行しながら、おおよその標準服の形を検討するという流れで進める方法もある。

(委員)

- ・パターンをいくつか作っておいて、意見に合わせるということか。

(委員)

- ・中学校の標準服は遠目で見れば、上着の区別はつきにくく、ズボンの違いで識別しているような場合もある。転校しても上着はそのまま使えることもあるので、田島中学校区の標準服と集約することも一つの手段ではないか。

(竹口学事課担当係長)

- ・田島中学校区の標準服と上着を合わせて、ズボンで差別化を図るということか。
(委員)
 - ・エンブレムやボタンを変えることも考えられる。
(竹口学事課担当係長)
 - ・田島中学校区の学校再編の担当者に相談はさせていただくが、田島中学校区の検討会議でのご意見もあると思う。
(委員)
 - ・別の標準服とするにしても、プレゼンテーションの時間をずらして、同時に実施することも考えられるのではないか。
(竹口学事課担当係長)
 - ・学校長の意見も聞きながら、標準服の大枠を決めていき、11月、12月にアンケート結果を参考に仕様を考えていく、進め方でよいか。
(委員)
 - ・桃谷中学校の事例では、オールシーズンの上着が入っているが、上着は夏場に着ないので指定する必要があるのか。個人刺繍も行っている事業者も少なく、費用がかかるし、リサイクルの際にはとらないといけなくなるが、必要なものなのか。
(竹口学事課担当係長)
 - ・桃谷中学校の事例では保護者から求められたので入っている。
(委員)
 - ・名前を書く場所もあるので、盗難の心配は不要だと思う。
 - ・貸与物品の種別や数量も指定する必要があるか。
(竹口学事課担当係長)
 - ・これまでの事例をお示しし、提案内容から除外するものも出てくると思われる。部会での意見交換により貸与物品も決めていきたい。
(委員)
 - ・通学帽の事業者も減ってきている。時間をとらないと納品が間に合わないかもしれない。
(竹口学事課担当係長)
 - ・スピーディーに動いて早期の入札を行うこともできる。
- 【その他】**
- (委員)
 - ・標準服の貸与とあるが、支給とは異なるのか。
(竹口学事課担当係長)
 - ・貸与となっているが、消耗品として数年着用していく間に受けた方の物となる。
(委員)
 - ・2着目以降は各自で購入となるのか。
(竹口学事課担当係長)
 - ・本来であれば買い替えの必要のない物であるので、学校再編による過度の負担を避けるための貸与となっている。
(委員)

- ・新入生は除くこととなる。

(委員)

- ・検討会議で標準服の貸与について、新入生の取扱をどうするかという意見があったが、部会で決定してもよいものか。

(竹口学事課担当係長)

- ・最終的には検討会議で決まることとなる。教育委員会事務局としては、在校生が基本となる。

(委員)

- ・新入生に貸与はおかしい。2年目以降の新入生の扱いはどうなるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・他校との兼ね合いや、いつまで続けるのかというバランスも必要になってくる。本来、不要である負担をフォローすることが行政としての最大限の対応となる。

(委員)

- ・お下がりをご想定していた世帯もあるだろうから、2、3年間はクーポンをもらえるといったことはできないか。

確認事項

- ・森委員が部会長を務めることとする。
- ・過去の標準服等にかかる提案事業者募集の事例における仕様や保護者意見の内容から、標準服等に求める項目を保護者に問うアンケートを実施する。
- ・アンケートの実施にあたっては、事務局から標準服等専門部会委員にアンケート案を提示したうえで、次回の検討会議において、進め方について確認を行った後、10月に各学校を通して保護者へアンケート用紙の配布を行う。
- ・アンケート結果の集約は事務局が行い、部会において仕様書の内容を検討するにあたり、項目を取捨選択する判断材料として用いる。
- ・アンケートの実施と並行し、学校長から教員の意見を聴取するとともに、部会において、標準服等のデザインの大枠について数種類のパターンを検討する。

6 会議資料

- ・レジュメ
- ・議事資料 標準服専門部会の進め方(案)
- ・参考資料1 ほか学校再編における標準服に関する進め方の事例
- ・参考資料2 生野中学校区標準服等一覧
- ・参考資料3 統合校貸与物品一覧
- ・参考資料4 桃谷中学校 標準服にかかる事業者募集時の仕様等
- ・参考資料5 御幸森・中川 第2回検討会議議事資料(抜粋)
- ・参考資料6 桃谷中学校 標準服仕様書
- ・参考資料7 大池小学校 標準服仕様書